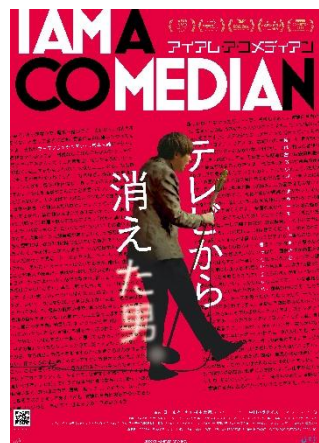


ひろまるシネマ in リファインド

〈地球〉と〈地域〉と〈自分〉のために、新しい選択肢をつくっていきけるような映画をいっしょに見ませんか？



嫌われ芸人、炎上芸人・・・。政治的な発言をきっかけにネットで炎上し、ついにはテレビから消えたお笑いコンビ“ウーマンラッシュアワー”村本大輔。世間から忘れ去られた芸人の真実に「東京クルド」の新鋭ドキュメンタリスト日向史有が迫った3年間の記録『アイアム・ア・コメディアン』を上映します！

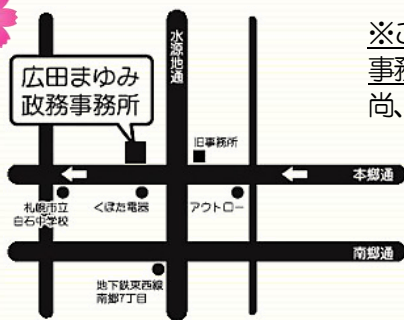
★公式サイト <https://iamacomedian.jp/>



《と き》 9月25日(金) ※各回とも定員12名
 昼の部 15:00～ / 夜の部 18:30～
 《ところ》 珈琲淹リファインド ※地下鉄 東西線「菊水駅」より徒歩7分
 (白石区菊水8条2丁目1-35/TEL:011-825-9461)
 《参加費》 600円 + ワンドリンク以上のオーダーをお願いいたします。

ひろまる“相談”サロン

毎月1回、白石各地で『ひろまる相談サロン(個別の道政相談会)』を開催中です。
 今回は、本郷商店街にある《広田まゆみ政務事務所》にて、
 “個別のよろず相談会”を開催します。



※ご相談希望の方は、原則予約制(お一人30分)です。
 事務所までお問合せください。(TEL:860-8666)
 尚、差し支えなければ、事前に相談内容の概要をお知らせください。



◆日時 9月23日(水・祝) 13:00～16:00
 ◆場所 広田まゆみ政務事務所(白石区本郷通7丁目北1-28)
 ※地下鉄 東西線「南郷7丁目駅」3番出口より徒歩5分

地域・ラジオ放送局と、もっと活用はせんか？



《白石区》エフエムしろいし《83.0MHz》
 毎週月曜日 10:30～11:30 『広田まゆみのすっきりマンデー』放送中！！



小学生の2人は
 準レギュラー(?!)

東日本大震災の時にコミュニティFM(地域のラジオ放送局)が、地域に貢献した事例に注目してきました。4期目から、地元白石区、お隣の厚別区のラジオ局とご縁ができ、毎週それぞれ1時間の番組を担当してきました。
 小学生から、地元の企業・団体の代表の方など、さまざまな実践者の方に出演いただき、私自身が学ぶ過程を、みなさんにも情報「共有」しています。
 非常時のためにも、日常的にラジオを活用する機会を増やしていきたいです。



この日のテーマ『さっぽろ農業を応援しよう！』



Facebook(ライブ)・YouTube(録画)でも、それぞれ配信中です！



《厚別区》FMドラマシティ《77.6MHz》
 毎週水曜日 19:00～19:59 『広田まゆみのイノベーション北海道～ひろまるつながるNPOな仲間たち』放送中！！



北海道
 の底力
 発進！



ひろまる通信

立憲民主党

北海道議会議員 広田まゆみの活動報告

2026年9月1日 ひろまる通信 号外
 発行 広田まゆみ
 住所 〒003-0025
 札幌市白石区本郷通7丁目北1-28
 TEL:011-860-8666 FAX:011-860-8667
 E-mail: office@hiromaru.jp
 URL: https://hiromaru.jp



さすがに秋へ向かう
 風を感じてる今日、頃
 ですが、いかがお過ごし
 でしょうか？
 九月は、第三回定例道
 議会が予定され、私も
 一般質問に登場予定
 定です。北海道の自然環
 境も次世代につながる土
 利用・開発のあり方を提
 言予定とす

是非つながってください

広田まゆみ 検索

北海道議会議員 広田まゆみ オフィシャルサイト
<https://hiromaru.jp/>



QRコードで簡単にアクセスできます！

フェイスブックページも更新中です！

▼ 広田まゆみ
<https://www.facebook.com/mayumihirota.94>
 ▼ 北海道議会議員 広田まゆみ政務事務所
<https://www.facebook.com/hiromarujimusyo>

X (旧 Twitter) やってます！ @hirotamayumi

2026 ひろまる パークゴルフ交流会

恒例となりました当後援会主催「パークゴルフ交流会」を開催します！
 ぜひ、皆様お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

《と き》 10月 8日(木)
 9:00集合 ※小雨決行

《ところ》 西の里パークゴルフクラブ
 (北広島市西の里234-1)

《参加費》 2,000円(プレイ代・お弁当代・賞品代)

※詳しくは、広田まゆみ事務所までお問合せください。
 TEL:860-8666(担当:松井)

ひろまる“ご近所”マルシェ

《と き》 9月26日(土)
 11:00～15:00

《ところ》 広田まゆみ政務事務所
 (白石区本郷通7丁目北1-28)
 ※地下鉄 東西線「南郷7丁目駅」3番出口より徒歩5分



毎月第3土曜日、本郷商店街にある《広田まゆみ政務事務所》にて、『ひろまる“ご近所”マルシェ』を開催しています。

札幌市内や白石区の農業のこと、知っていますか？
 地元農家さんの美味しい新鮮野菜を、ご近所さんに届けたい。
 そして、農業都市「札幌」の歴史と未来を繋げて行けたらと思います。

◎ひろまる通信ご希望の方は
 FAX番号またはご住所をお知らせ下さい。
 TEL:011-860-8666
 FAX:011-860-8667



《白石区》 毎週月曜日 10:30～11:30
 『広田まゆみのすっきりマンデー』放送中！！
 エフエムしろいし《83.0MHz》
 《厚別区》 毎週水曜日 19:00～19:59
 『広田まゆみのイノベーション北海道～ひろまるつながるNPOな仲間たち』放送中！！
 FMドラマシティ《77.6MHz》



【議会活動報告】人口が減っても、暮らし続けられる北海道へ

今期3年半、道議会で問い続けてきたこと

2023年春に今期が始まってから約3年半。文教委員会をスタートに、人口減少問題・地方分権改革等調査特別委員会、総合政策委員会、予算・決算特別委員会などで、教育、文化、人口減少、エネルギー、森林、水産、土地利用、水資源、地域交通、DXなど、さまざまなテーマを取り上げてきました。振り返ると、一見ばらばらに見える質問の根底には、共通する問いがあったように思います。人口減少が進む北海道で、暮らしをどう守り、北海道の持つ力をどう生かし、何を次の世代へ手渡していくのか。

2023年 子ども・教育・地域から

今期のスタートは文教委員会でした。高校のあり方、不登校、道立近代美術館、子どもたちの学びや文化に触れる機会などを取り上げました。特に問い続けてきたのが、人口減少地域の高校を、生徒数だけで考えてよいのかということです。地域から高校がなくなることは、学校が一つ減るだけではありません。若者の流出、地域産業の担い手、公共交通、地域コミュニティなど、まちの将来そのものに影響します。だからこそ、**高校を教育施設としてだけでなく、人材育成や地域づくりの拠点として捉え直す**ことが必要ではないかと提起してきました。不登校についても、学校だけに問題を背負わせず、子どもや家庭を孤立させない地域全体の支援のあり方を求めました。

2024年 教育から「北海道の人づくり」へ

2024年には、金融経済教育、グローバル人材育成、国際交流、青少年教育、近代美術館、高校づくりなどへ議論を広げました。金融経済教育では、投資や資産形成の知識だけでなく、「お金とは何か」「働くとは何か」まで考える学びを。国際交流では、英語力だけでなく、**北海道を知り、多様な文化や価値観を理解し、世界とつながる人を育てる**ことを大切にしてきました。近代美術館についても、建物をどうするかにとどまらず、北海道らしいコレクションや子どもたちとの接点、道内美術館とのネットワークなど、「北海道の美術館として何を担うのか」を問い続けました。教育や文化を学校や施設の中だけで完結させず、地域づくりや北海道の未来につなげる。その問題意識が、次の議論へと続いていきます。

2025年 「地域が持続する条件」へ

2025年には、人口減少、森林、水産業、再生可能エネルギー、住宅、景観、雇用、農業、地域経済、デジタルなど、質問の領域がさらに広がりました。しかし、私の中では教育と別のテーマに移ったという感覚はありません。高校がなくなっても地域は弱る。交通がなくなっても暮らせない。森林や水を失っても地域の将来はない。そして、仕事がなければ若い世代は地域に残れません。人口減少についても、「人口を何人増やすか」だけではなく、若者や女性の流出、関係人口、地域の担い手などを含め、**人が暮らし続けたいと思える地域そのものをどうつくるのか**という視点から議論してきました。

前期から続くテーマ エネルギーと北海道の自立

エネルギーは、今期になって突然始めたテーマではありません。前期には「産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員会」に所属し、省エネルギー、新エネルギー、石炭火力、再生可能エネルギーなどについて質問を重ねてきました。北海道には、風力、太陽光、地熱、バイオマスなど大きな可能性があります。だからこそ、単に「再エネをどれだけ増やすか」ではなく、「誰のために、どう生かすのか」を考える必要があります。発電設備は北海道に立地しても、利益や意思決定が地域の外へ流れてしまえば、本当の意味で北海道の力にはなりません。一方で、開発によって森林、景観、生物多様性、水環境、地域の暮らしが損なわれてもいけません。**エネルギー政策を、地域政策、産業政策、土地利用政策と切り離さない**。北海道の資源を地域の雇用や所得につなげ、守るべき自然は守る。この視点は、前期から現在まで続く大切なテーマです。

2026年暮らしと北海道の「土台」をつなぐ

今年は、ジェンダーギャップと人口流出、住民自治、地域運営組織、地域交通、情報公開、水資源、地下水、土地利用、DX、国際戦略などを取り上げています。住民自治では、町内会や自治会だけでなく、NPO、地域おこし協力隊、学生、地域外の人材など、多様な人たちが地域づくりに関われる仕組みを提案しました。7月には「地域の足」を質問。病院や商店があっても、そこへ行く手段がなければ暮らしは成り立ちません。交通を福祉、医療、教育とつながる**生活インフラ**として守ることを求めています。同時に、水資源や地下水、土地利用についても議論を深めています。大規模開発や再生可能エネルギー施設の立地が進む中、「法律に違反していなければよい」だけでは、北海道の自然や暮らしを守れません。**水源、森林、生物多様性、景観、地域の暮らしを一体として捉え、北海道として「どこを守り、どこを活用するのか」を示す**。そのための土地利用政策が必要だと考えています。

「何を減らすか」ではなく、「何を残すか」

この3年半を振り返ると、2023年に子どもや高校から始まった問いが、教育、文化、人づくり、人口減少、地域交通、エネルギー、そして森林、水、土地利用へと広がってきました。でも、問い続けてきたことはシンプルです。**人口が減る時代だからといって、「何を減らし、何を諦めるか」だけを考える北海道にはしたくない**。北海道には、人、地域、森林、水、農水産物、エネルギーなど、多くの財産があります。それを地域の仕事や所得、暮らしの豊かさにつなぎ、次の世代へ手渡していくこと。そのために、教育、福祉、交通、産業、エネルギー、環境といった縦割りを越え、地域の暮らし全体を見る道政をつくってほしい。そして、制度や計画を「つくって終わり」にせず、現場で本当に機能しているのかを問い続ける。**人口が減っても、安心して暮らし続けられる北海道へ**。地域でいただく声を道議会につなぎながら、これからも一つひとつ議論を積み重ねていきます。

「地域の価値」を再定義する夏 ～ 熊本・佐賀への道外調査、二セコ・余市での道内視察 ～

人口減少を「縮む話」で終わらせない

ー 熊本・佐賀に学ぶ、地域の挑戦を支える仕組み ー

人口減少が進む北海道。今回の道外調査で熊本県、佐賀県を訪ね、改めて感じたのは、人口減少対策とは単に「人口を増やす」「若者を引き留める」ことではない、ということでした。

熊本大学の「地域未来創造塾」では、大学、自治体、企業、金融機関、住民などが地域に入り、現場の課題から新たな事業を生み出す「ローカルイノベーション」を育成。一度地域を離れても関わり続け、戻って挑戦したくなる地域をつくるという考え方です。また、地域づくりや産業、人材育成の大きな土台として、水環境の保全が位置づけられていることも印象に残りました。

山鹿市のYAMAGA BASEでは、廃校となった旧小学校を拠点に、農業、観光、教育、移住・雇用を結びつける挑戦が進んでいました。一方で、廃校取得に伴う登記や税負担など、志ある民間事業者が背負う制度上の壁も見えてきました。



佐賀県では、人口減少を前提に、行政職員自身が地域に入り、新しい価値を生み出す「チェンジメーカー」となることを重視。県外NPOの力も積極的に地域へ呼び込み、行政だけで課題を抱え込まない姿勢が印象的でした。

さらに鹿島市などでは、干潟や水環境、生態系といった自然環境を、一つの自治体の区域だけでなく、周辺自治体や地域の多様な主体と連携して守り、地域づくりにつなげる広域的な視点も学びました。自然には行政界がありません。人口減少で一つひとつの自治体の担い手や財源が限られていくからこそ、こうした発想は北海道にも重要だと感じます。

熊本の「ローカルイノベーション」と、佐賀の「チェンジメーカー」。呼び方は違って、共通するのは、地域課題を「衰退の証拠」ではなく、新しい価値を生み出す出発点として捉えることです。そして、挑戦する個人だけに責任を負わせないこと。行政、大学、企業、金融機関、NPO、住民がそれぞれの力を持ち寄り、自然環境や地域の暮らしを土台に、新しい仕事やつながりをつくっていく。

人口減少の著しい北海道だからこそ、地域の環境を守りながら、人と挑戦を育てる「共創」を支える行政へ。今回の視察で得たヒントを、北海道の地域政策に生かしていきたいと思います。

ほほ

毎月「質問」しています。 ～ 前期は《 文教常任委員会／北方領土対策特別委員会 》に所属 ～

《2026年4月》
◇総合政策常任委員会

・内閣官房からの地下水保全に関する通知への対応について

◇人口減少問題・地方分権改革等調査特別委員会

・人口減少対策としての住民自治について

《5月》総合政策／人口減少問題・地方分権改革等調査

・北海道国土利用計画・土地利用基本計画と水資源保全などについて

・地域運営組織について

《6月》総合政策

・北海道総合計画について

《7月》総合政策／人口減少問題・地方分権改革等調査

・グローバル戦略について

・第3期北海道創生総合戦略における地域の足の確保について



二セコ町に学ぶ

ー 地域の価値を育てる持続可能なまちづくり ー

7月21日、22日の2日間、北海道議会民主道民連合の地球温暖化対策プロジェクトで二セコ町を視察しました。

今回学んだのは、二セコSDGs街区「二セコミライ」をはじめ、準都市計画と景観行政、高断熱・高気密住宅、官民連携による地域経営、新庁舎、自伐型林業など。一見異なる取組ですが、そこには「地域の価値を守り、育て、次世代へつなぐ」という共通した考え方がありました。

特に印象に残ったのが、景観を単なる「きれいな景色」ではなく、暮らしや土地・住宅の価値を支える「地域資産」として捉えていることです。準都市計画や景観条例を活用し、開発を一律に規制するのではなく、住民や事業者との対話を重ねながら、地域の将来像を共有しています。

「二セコミライ」では、住宅不足と脱炭素という二つの課題に同時に挑戦。初期費用の安さだけでなく、光熱費や維持管理費、健康、耐久性まで考えた「100年住み続けられる住宅」を目指しています。さらに、高付加価値住宅の収益を地域で働く人たちの住宅へ還元するなど、外からの投資を地域の暮らしにつなげる仕組みも注目されます。

片山前町長のお話で心に残ったのは、**「まちは不動産事業者ではない」**という言葉。土地を高く売ることや短期的な利益を追うのではなく、景観や住環境、森林を守りながら、地域全体の価値を高めていくという自治体経営の姿勢です。

また、自伐型林業の現場からは、森林を木材生産だけでなく、水源涵養、生物多様性、景観、地域の仕事を支える資産として守り育てることの重要性を学びました。

説明してくださった皆さんが、一様にいきいきと地域の未来を語られていたことも印象的でした。

人口減少時代に必要なのは、すべての地域が同じ姿を目指すことではありません。それぞれが持つ自然、景観、文化、人のつながりを「地域の価値」として磨き続けること。そのために、小規模自治体だけでは担いきれない土地利用や景観、住宅、森林などの専門性を、北海道がどう支えていくのか。今回の学びを道政への提言につなげていきます。



令和7年 第3回定例道議会 予算特別委員会第2分科会
【水産林務部】【経済部】所管にて質問

令和7年 決算特別委員会

【企業局】、第2分科会【建設部】【水産林務部】
【農政部】【経済部】所管にて質問

令和8年 第1回定例道議会 予算特別委員会第1分科会

【保健福祉部】【総合政策部】【総務部】所管での質問結果は、議事録とともに「録画配信」も公式サイトに掲載。



北海道議会議員 広田まゆみ オフィシャルサイトでは、「活動報告」のほか、これまでの「道議会議事録（録画配信あり）」も掲載していますので、併せて御覧ください。QRコードで簡単にアクセスできます！
<https://hiomaru.jp/>

後期は《 総合政策常任委員会／人口減少問題・地方分権改革等調査特別委員会 》に所属